

なぜサラワクとサバでは BNが「圧勝」したのか

森下 明子 日本学術振興会特別研究員・京都大学

今回のマレーシア総選挙において、「大敗」した国民戦線 (BN) が獲得した連邦下院議席数は140 (総議席数222) であったが、そのうち4割に近い54議席がサラワクとサバの議席であった。サラワクBNは連邦下院31議席中30議席を獲得し、サバBNは25議席中24議席を占めた。また州議会においては、サバBNが州議会60議席中59議席を獲得した (今回、サラワクでは州議会選挙は行われていない)。半島部では諸野党が躍進したのに対して、なぜサラワクとサバではこれほどまでにBNが圧勝したのか。

報告者は、総選挙期間中に現地に滞在し、地元の新聞記者に同行してサラワクとサバの選挙区をいくつか回った。実際のところ、BNの圧勝は予想されていたわけではなく、サラワクとサバでも野党勢力の伸張が噂されていた。サラワクでは、華人の多い都市部の5選挙区と、非ムスリム・ブミプトラ (イバン、ピダユ、クラビット、ルン・バワンなど) が多い内陸部の選挙区のうち4選挙区でBNの勝利に不安があるといわれた。またサバでは、連邦下院選については華人の多い都市部の4選挙区と、非ムスリム・ブミプトラ (カダザン、ドゥスン、ムルットなど) の多い選挙区のうち3選挙区、ムスリムの多い選挙区のうち3選挙区で野党票が伸びるといわれた。また州議会選に関しては、少なくとも17選挙区でBNの勝利に不安があった。本報告では、こうした野党有利が噂されていた選挙区に焦点を当て、野党有利の背景が何であったのか、しかし、結局のところBNが勝利したのはどのような理由によるものかについて、現地での見聞をもとに分析する。

1. サラワク州

サラワクは、マレーシアで唯一、連邦与党連合BN

の中核政党である統一マレー人国民組織 (UMNO)、マレーシア華人協会 (MCA)、マレーシア・インド人会議 (MIC) の支部がない州である。ここでは地元政党が与党連合を形成し、2008年総選挙では、マレー人 (ムスリム) とムラナウ人 (ムスリムとクリスチャン)、そして、一般にダヤックと総称される非ムスリム・ブミプトラの一部を支持基盤とするサラワク統一ブミプトラ保守党 (PBB)、華人とダヤックの一部を支持基盤とするサラワク統一人民党 (SUPP)、ダヤックを支持基盤とするサラワク人民党 (PRS) とサラワク進歩民主党 (SPDP) がサラワクBNを構成した¹。今回の総選挙では、PBBが14議席、SUPPが6議席、SPDPが4議席、PRSが6議席を獲得している。サラワク州の政治は、基本的にクアラルンプールの政治とは連動せず、サラワクBNが連邦下院に連邦BNを支持する議員を多く送り込み続ける限り、クアラルンプールのBN首脳部はサラワクの政治に干渉しなかった。野党は、半島部と同じくDAP (7選挙区で候補者擁立)、国民正義党 (PKR、12選挙区)、汎マレーシア・イスラーム党 (PAS、1選挙区)、そのほかにBNの対立候補を支援したとして2002年にサラワクBNから放逐されたダヤック系政党のサラワク国民党 (SNAP、3選挙区) があった。また、サラワク州では無所属候補が多く、今回の総選挙では12選

¹ 2000年の人口センサスによると、サラワクの民族構成は、ムラナウ人 5.6%、マレー人 23.0%、華人 26.7%、ダヤック (イバン人 30.1%、ピダユ 8.3%、オラン・ウル 5.8%) である。なお、オラン・ウルは、主にサラワク州中・東部の河川中・上流域に暮らすクダヤン、クラビット、カヤン、ケニヤ、プナン、ルン・バワンといった非ムスリム・ブミプトラの総称である。ただし、政府統計と実際の民族区分および人口が一致するかどうかについては、別の議論の課題である。

表1 サラワク州においてDAPの党勢が強いといわれた選挙区の選挙結果

選挙区	Turnout	spoilt	BN政党(得票)	野党(得票)	野党(得票)	1位と2位の得票差
クチン	36092 (67.8%)	242	SUPP 華 (12949)	DAP 華 (22901)		9952
スタンピン	43488 (64.7%)	428	SUPP 華 (21966)	DAP 華 (18896)	PKR (2198)	3070
サリケイ	22246 (70.2%)	176	SUPP 華 (10588)	DAP 華 (10537)	無所属 3名 (計766) 華	51
ラナン	34443 (69.5%)	253	SUPP 華 (19476)	DAP 華 (14612)		4864
シブ	36379 (67.8%)	334	SUPP 華 (19138)	DAP 華 (15903)	PKR 華 (812)	3235

※ Turnout = 選挙登録者のうち、実際に投票した者

Spoilt = 無効票

華……華人候補者、ダ……ダヤック人候補者、ム……ムスリム候補者

表2 サラワク州内陸部でBN勝利に不安があった選挙区および新設選挙区の選挙結果

選挙区	Turnout	spoilt	BN政党(得票)	野党(得票)	野党(得票)	1位と2位の得票差
マス・ガディン	14800 (67.4%)	188	SPDP ダ (8551)	SNAP ダ (4250)	無所属2名 (1782) ダ	4301
バラム	12126 (49.6%)	167	SPDP ダ (7996)	無所属 ダ (3952)		4044
ルボック・アントウ	12028 (70.0%)	99	PRS ダ (6769)	無所属 ダ (5159)		1610
フル・ラジャン	11164 (63.1%)	139	PRS ダ (6590)	無所属 ダ (4426)		2164
(新) シブティ	13030 (58.8%)	192	PBB ム (8238)	PKR 華 (4590)		3648
(新) リンバン	12380 (60.9%)	113	PBB ム (6427)	PKR 華 (5751)		676

選挙区で無所属候補がみられた。サラワク州において、DAPは華人、PKRはマレー人、華人、ダヤック、PASはマレー人、SNAPはダヤック、無所属候補者は候補者のエスニシティに対応して、ムラナウ人、マレー人、華人、ダヤックの票を集めたが、今回の総選挙で議席を獲得したのはDAP（1議席）だけである。

サラワクで野党勢力の伸張が噂されていたのは、華人人口の多い都市部を含む選挙区（クチン、スタンピン、サリケイ、シブ、ラナン）であり、DAPへの人気が高かった（表1参照）。州東部の都市ミリも華人の多い地域であるが、ミリはSUPP党首の地元であり、SUPPが票固めに成功していたため、野党の勝利はないと予測された。また今回の選挙では、都市部だけでなく、SNAPからダヤック人の反BNリーダーであるパタウ・ルビス（元連邦下院および州議会議員）が出馬した州北西部のマス・ガディンと、

SNAPの副党首ケビン・ワン（元州議会議員、実業家）が出馬した内陸部のバラムにおいてもBNの勝利に不安があるといわれた。ほかにも、内陸部のルボック・アントウとフル・ラジャンでは、候補者選定をめぐるPRSの派閥対立を背景に、候補者を擁立できなかった派閥が無所属候補を支援するのではないかといわれた（表2参照）。しかし、この党内対立はPRS幹部の話し合いにより投票日までには解消し、BNの不安要因はなくなった。

今回の総選挙におけるサラワクBNの圧勝は、これまでの選挙と同じく、基本的にBN候補による票買いと賭博の利用によってもたらされたといわれる。票買いは特に投票日の2、3日前から頻繁に行われ、村では小額のところでも1人10～50リングット、町では野党の党勢が強いところになると、BNのボランティア・スタッフに登録すると最大で1人1500リング

ットが支払われたという。また賭博の利用とは、選挙期間中、町のあちこちで今回の総選挙で誰が当選するか賭けられ、賭けの元締めと通じたBN政治家が配当金の資金提供者となつて、BN候補に高いオッズがつけられた。そうすると、賭けに参加した人たちの大半は高いオッズのBN候補に賭け、投票日には、賭けに勝つために、友人や隣近所の人々にもBN候補への投票を促した。BN候補が当選すると、BN候補に賭けた人びとには賭け金が倍になって返ってくる。言ってみれば票買ひの変形パターンであり、こうした賭博がサラワクのいたるところで行われたという。

また、野党勢力が強いといわれたサリケイでは、BNが自党候補以外に、表向きには反BNである無所属候補を擁立し、野党票の分断を図つたといわれる。投票結果を見ると、サリケイでは、1位のBN-SUPP候補(10,588票獲得)と2位のDAP候補(10,537票)の票差がわずか51票しかなく、3位以下の無所属候補(3位が545票、4位が116票、5位が105票)がDAP票を切り崩したことがうかがえる。また、野党候補のなかでも特に人気のあったDAPサラワク支部長が立候補したシブ選挙区では、近隣の選挙区のBN支持者たちがシブに投入されたといわれる。シブ選挙区の投票結果は、1位BN-SUPP(19,138票)、2位DAP(15,903票)、3位PKR(812票)であった(表1参照)。

BNによる金と人の動員に加え、諸野党の敗北には、野党内の事情が反映していた。野党の党勢が強いといわれたスタンピンでは、DAPとPKRから候補者が出たため、野党票が二分され、さらに一部の地元DAP支持者が同選挙区のDAP候補に難色を示したため、野党支持者の足並みがそろわなかったという。そのため、1位BN-SUPP(21,966票)、2位DAP(18,896票)、3位PKR(2,198票)という結果になった。またランナンでは、DAP候補になった人物に十分な人気がなく、BN-SUPP候補(19,476票)がDAP候補(14,612票)に5,000票近い差をつけて当選した(表1参照)。もしDAPサラワク支部長がランナンから立候補していればDAPが勝利していたといわれるが、ランナンのBN候補であった実業家が弁護士であるDAPサラワク支部長の仕事上の顧客であったことから、ランナンのDAP候補には敢えて人望の低い人物が立ったといわれる。

また、今回新設された州東北部のシブティとリン

バン選挙区では、民族混合区であったが、BN勝利が確実と思われていたため、PBBからムスリム候補者が立てられた²。これらの選挙区ではBNは特に選挙対策を立てていなかったようであり、そのため、PKRが擁立した華人候補者に予想以上の票が集まった(表2参照)。これは華人有権者とダヤック有権者のBN離れが原因と考えられ、その背景には、特にリンバンに関しては、森林開発をめぐる土地問題でダヤック住民の間に州政府に対する不満が高まっていたことが挙げられる。それにも関わらず、PBBがムスリム候補者を立てたため、ダヤック有権者はこれに反発し、野党に投票したと考えられる。

2. サバ州

野党間・野党内に不協和音がみられたサラワクと異なり、サバではBN政党間・政党内の亀裂が目立ち、選挙区によってはそれが野党有利の背景になっていた。2008年総選挙において、サバBNを構成していた政党は、ムスリム(マレー人、バジャウ人、スルック人、ブルネイ・マレー人、オラン・スンガイ人、ブギス人、クダヤン人、一部のドゥスン人やムルット人など)と一部の非ムスリム・ブミプトラ(カダザン、ドゥスン、ムルット、ルングスなど)を支持基盤とするUMNO、華人の一部と非ムスリム・ブミプトラを支持基盤とするサバ団結党(PBS)、非ムスリム・ブミプトラを支持基盤とする統一パソ・モモグン=カダザン人機構(UPKO)、サバ人民統一党(PBRS)、華人を支持基盤とするサバ進歩党(SAPP)、自由民主党(LDP)、MCA、人民運動党(Gerakan)、インド人を支持基盤とするMICであった³。今回の総選挙では、連邦下院についてはUMNOが13議席、PBSが3議席、UPKOが3議席、PBRSが1議席、SAPPが3議席、LDPが1議席を獲得し、州議会については、UMNOが32議席、PBSが12議席、UPKOが6議席、

² リンバン選挙区の民族構成は、華人 23.8%、イバン 20.6%、オラン・ウル 11.9%、マレーおよびムラナウ 43.7%である。シブティについては資料不足のため不明。

³ 選挙管理委員会のデータによると、サバ州の民族(宗教)構成は、ムスリム 51.4%、華人 20.0%、非ムスリム・ブミプトラ 28.1%である。ただし、選挙管理委員会の統計と実際の民族(宗教)区分および人口が一致するかどうかについては、別の議論の課題である。

PBRsが1議席、SAPPが5議席、LDPが2議席、MCAが1議席を獲得した。野党はDAP、PKR、PASのほか、ムスリムを支持基盤とする地元政党の団結サバ人民戦線党 (Bersekutu) と統一民主サバ人民の力党 (Setia)、非ムスリム・ブミプトラを支持基盤とする統一パソ・ヌヌクラガン人国民組織 (Pasok) があるが、今回の総選挙で議席を獲得したのはDAP (連邦下院1議席、州議会1議席) だけであった。

サバにおいて野党勝利の可能性が噂されていたのは、連邦下院では州都コタキナバル、前回の2004年総選挙で無所属候補が当選したサンダカン、地元名望家のキティンガン兄弟がBN (PBS) とPKRに分かれて立候補したクニンガウのほか、ピナンパン、キマニス、ブルラン、コタブルッ、バトゥ・サピ、テノム、タウワなどでも野党票が伸びるといわれた。また州議会では、2004年総選挙で無所属候補が当選したクアラ・ペニユのほか、ムロタイ、ピンコール、スック、タンジュン・カポル、アピ・アピ、ラハッ・ダトゥなど、少なくとも17選挙区でBNの勝利に不安があったといわれた。

こうした選挙区で野党の伸張が噂された背景は、大きく分けて2つある。選挙区によって詳細は異なるが、ひとつは有権者がBN候補を支持するかどうか不安があったことである。華人人口の多い都市部の選挙区 (連邦下院ではコタキナバルとサンダカン、州議会では特にアピ・アピ、ルヤン、スリ・タンジョン) では一般に野党の人气が高く、また一部のムスリム地域 (連邦下院ではテノム、キマニス、コタブルッ、州議会では特にバンギとシンドウミン) では、サバUMNO支部長で州首相のムサ・アマン (マレー人) が党幹部人事において自分の側近ばかりを優遇するため、ほかの派閥 (バジャウ系、スルック系、ブルネイ・マレー系、非ムスリム・ブミプトラ系など) に属するUMNO党员・支持者の間でムサ・アマンに対する不満が広がっていた。これらの選挙区では、ムサ・アマンが決定したUMNO候補者に対し、全てのUMNO党员・支持者が投票するかに不安があった。また非ムスリム・ブミプトラ人口の多い選挙区では、クニンガウ連邦下院選挙区において、カダザン指導者のひとりであるPBS党首パイリン・キティンガンと、野党PKRから出馬した彼の弟ジェ

フリー・キティンガンが対立したため、有権者がキティンガン兄弟のどちらに票を投じるか予測がつかなかった。ジェフリー・キティンガンは連邦下院選だけでなく、州議会選においてもピンコール選挙区から出馬し、ここでは与党UPKO候補者と票を争った。またピナンパン連邦下院選挙区においては、別のカダザン指導者であるUPKO党首ベルナルド・ギルッ・ドンボックが出馬したが、彼はもともとドゥスン人口の多いラナウ選挙区の選出議員であり、今回の総選挙で彼がピナンパンから出馬することになったために、これまでピナンパンから選出されていたUPKO連邦下院議員ドナルド・ピーター・モジュンティンはモヨグ選挙区の州議会議員候補に移り、さらに、これまでモヨグ選出のUPKO州議会議員だったフィリップ・ラシンバンは今回出馬を断念させられた⁴。そのため、地元での人气が高いラシンバンが出馬できなかった今回のUPKO候補者人事に対し、有権者が反発するのではないかと懸念されていた。ほかにも幾つかの選挙区でBN候補が非地元出身者であったり、人望がなかったりしたため、BNの票獲得に不安があった。こうしたことから、サバ州の有権者のなかには、政党や党の掲げる政策よりも、候補者が誰であるかを重視する人々が少なからずいることがうかがえる。

野党有利が噂されたもうひとつの背景は、サバBNの政党間・政党内争であった。サバUMNOでは、クアラルンプールのUMNO中枢部の不和を背景に、バダウィ首相を後ろ盾にした州支部長ムサ・アマンの影響力が弱まり、州支部内の派閥対立が統制できていなかった。そのためスラバヤン州議会選挙区では、ムサ・アマンが決定したUMNO候補に対し、ナジブ副首相派で同選挙区に影響力をもつUMNO地元幹部が難色を示した。またブルラン連邦下院選挙区では、UMNOの数少ないクリスチャン・メンバーが候補に立ったが、この地区の開発事業の利権をめぐるサバUMNO内で対立があり、候補者と敵対する派閥が無所属候補を擁立するのではないかといわれ

⁴ UPKO 党首ドンボックがラナウからピナンパンに選挙区を変えたのは、彼がアブドゥラ・バダウィ首相から、これまでのラナウ選挙区では敗北の可能性が高いため、連邦下院ではなく州議会議員候補に移るよう指示されたのに対し、それに納得できず、カダザン有権者の多いピナンパン連邦下院選挙区に移ったためである。

た。PBSでは、ムサ・アマン州首相と仲の良いパリン・キティンガン党首とバダウィ首相と仲の良い党幹部との間で主導権争いがあったため、党内の足並みに乱れがあったといわれる。また、州首相とLDP党首には過去の政策をめぐる確執があり、LDPが候補者を出したサンダカン連邦下院選挙区とタンジュン・カボル州議会選挙区には、州首相と良好な関係をもつSAPPがLDP候補を追い落とすために無所属候補を擁立した。また逆に、LDP支持者が多いにもかかわらずSAPPが候補者を出したムロタイ州議会選挙区では、LDPの党員・支持者がSAPP候補に投票しない可能性が懸念された。またクアラ・ペニユ州議会選挙区では、UPKO候補に対し、前回の総選挙で無所属から出馬し当選した元UMNO幹部が、サバUMNO幹部の後援を得て、再び無所属から出馬した。

こうした様々な不安要因があったため、サバBNは勝利のために、「元」外国人労働者（インドネシア人やフィリピン人）の動員やBNへの複数回投票、票買い、軍人・警察官のBN票などを大いに活用した。選挙違反である複数回投票が選挙工作として利用可能だったのは、本総選挙から導入されるはずだった重複投票防止のための特殊インクの使用が、投票日の4日前になって突如「治安上の理由」により撤回されたためである。インク使用の撤回によって、BNは容易に、これまでの総選挙ですでにBNから身分証明書（IC）を配布されていたフィリピン人やインドネシア人をかき集め、彼・彼女らに数箇所の投票所を回らせて、何度もBNに投票させることができた。コタキナバル周辺や州南部の選挙区では、投票日早朝、州各地から集められた「俄か有権者」たちがボートに乗って次々と近くの港に到着し、用意されたバスやワゴン車に分乗して投票所巡りをしたという。サバでの「有権者」集めはさまざまな組織によって行われたが、東海岸南部では全国規模のイスラーム福祉組織PEKIDAが、主にフィリピン人からなる「有権者」をUMNOのために7,000人調達したといわれ、同地域のラハツ・ダトゥ州議会選挙区には、そうした「有権者」が4,000人投入されたという。

連邦下院のサンダカンと州議会のアピ・アピでは、当選したBN候補と2位の野党候補の得票差がそれぞれ僅か176票（BN-LDP：8,297票、DAP：8,121票）、

174票（BN-PBS：3,419票、PKR：3,245票）であったが、これは、軍人・警察官によるBN票が効果を発揮したといわれる。また州議会のピンコールでも、1位のBN-UPKO候補（4,589票）と2位のPKR候補ジェフリー・キティンガン（4,418票）の得票差が171票しかなく、本来ならばジェフリー・キティンガンが勝利していたといわれるが、投票所スタッフが投票終盤にBN票を水増したため、BN候補が当選したといわれる。州議会のクアラ・ペニユでは少し事情が異なり、ここでは、サバUMNOの元メンバーである無所属候補が、後援者であるサバUMNO幹部から選挙戦後半に十分な資金を受け取れず、票買いが満足にできなかったため、BN-UPKO候補に僅差（1位4,416票、2位4,159票）で敗北したといわれる。そのほかに指摘されている諸野党敗北の原因としては、同じ選挙区に野党・無所属候補が複数立候補したために野党票が割れたことや、野党候補の人望が低かったために野党に票が十分に集まらなかったことが挙げられる（表3、4参照）。

3. 結論

今回の2008年総選挙において、サラワクとサバでは、華人有権者のBN離れという全国的な現象に加えて、サバBN内のLDPとSAPPの対立、サラワクのPRSやサバのUMNO、PBSにみられる与党内の派閥対立、有権者（の一部）の候補者重視の投票といった地方の事情が一部の地域で野党に有利な状況を生じさせた。また、サバUMNOの派閥対立に関しては、クアラルンプールのUMNO中枢部の不和が波及し、アブドゥラ・バダウィ首相を後ろ盾にする州支部長ムサ・アマンの統制力が弱まっていたことが背景として重要である。

しかし、サラワクにおいてもサバにおいても、結局はBNが野党有利の選挙区において「勝利」をおさめた。これは、連邦BNの支援によって、票買いのための資金投入や「有権者」の動員、軍・警察票の利用、投票所スタッフの不正、無所属候補の擁立による野党票の分断といった、さまざまな選挙工作が功を奏したためである。また、これに加えて、サラワクとサバでは野党候補者の乱立や、候補者選定における野党の戦略不足といった野党側の敗因も重要である。

表3 サバ州においてBN勝利に不安があった選挙区の選挙結果（連邦下院）

選挙区	Turnout	spoilt	BN政党 (得票)	野党 (得票)	野党 (得票)	1位と2位の 得票差
コタキナバル	27909 (63.8%)	326	PBS 華 (8420)	DAP 華 (9496)	PKR 華 (9358)	106
サンダカン	19991 (60.9%)	644	LDP 華 (8297)	DAP 華 (8121)	無所属 華 (2929)	176
タワウ	27032 (63.5%)	735	SAPP 華 (13943)	DAP 華 (9076)	PKR 華 (3278)	4867
バトゥ・サピ	15980 (61.5%)	730	PBS 華 (9479)	無所属 華 (5771)		3708
クニンガウ	25956 (73.0%)	464	PBS 非ム (14598)	PKR 非ム (10334)	DAP 非ム (560)	4264
ピナンパン	25377 (70.8%)	540	UPKO 非ム (13400)	PKR 非ム (10337)	無所属2 (1100)	3063
ブルラン	12313 (64.2%)	468	UMNO 非ム (7090)	無所属 非ム (2738)	PKR、無2 (1271,746)	4352
テノム	15705 (75.2%)	534	UMNO ム? (9535)	PKR ム? (2652)	無所属 非ム (2499)	6883
キマニス	17367 (78.1%)	500	UMNO ム 10242	無所属 ム (4789)	PKR ム (1615)	5453
コタ・ブルツ	12951 (30.1%)	1046	UMNO ム (7964)	PKR ム (3941)		4023

※ Turnout = 選挙人登録者のうち、実際に投票した者

Spoilt = 無効票

華……華人候補者、非ム……非ムスリム・プミボトラ候補者、ム……ムスリム候補者

表4 サバ州においてBN勝利に不安があった選挙区の選挙結果（州議会）

選挙区	Turnout	spoilt	BN政党 (得票)	野党 (得票)	野党 (得票)	1位と2位の 得票差
スリ・タンジュン	12807 (63.1%)	171	PBS 華 (4187)	DAP 華 (5359)	PKR 華 (3090)	1172
タンジュン・カボル	13157 (67.5%)	567	LDP 華 (6629)	無所属 華 (3010)	PKR等6 (計2951)	3619
アピ・アピ	6774 (62.9%)	110	PBS 華 (3419)	PKR 華 (3245)		174
ルヤン	11625 (65.5%)	95	SAPP 華 (5073)	DAP 華 (3571)	PKR、無所属 (2794, 92)	1502
クアラ・ピニュー	9421 (73.0%)	257	UPKO 華 (4416)	無所属 力 (4159)	PKR 華 (589)	257
ムロタイ	8777 (63.0%)	67	SAPP 華 (3723)	無所属 華 (3481)	PAS 等3 (計1511)	242
モヨグ	11164 (73.9%)	119	UPKO 非ム (6782)	PKR 非ム (4097)	無所属 非ム (166)	2685
ピンコール	9455 (70.9%)	155	UPKO 非ム (4589)	PKR 非ム (4418)	無所属2 (164, 129)	171
ムララップ	7259 (70.6%)	176	PBS 非ム (4530)	Bersekutu (2431)	PKR 非ム (122)	2099
ソーク	9250 (73.6%)	63	PBRS 非ム (5496)	PKR 非ム (3365)	Bersekutu等2 (124, 202)	2131
バンギ	5109 (62.4%)	232	UMNO ム (3351)	PKR ム (1327)	Bersekutu等3 (87, 70, 34)	2024
シンドウミン	9549 (74.4%)	185	UMNO ム (5634)	PKR ム? (3730)		1904
ラハツ・ダトウ	13557 (62.9%)	547	UMNO ム (8034)	PKR ム (4976)		3058
スラバヤン	7354 (65.1%)	389	UMNO ム (4501)	PKR ム (2464)		2037